

Rotary's Great Objective 「ロータリーの偉大な究極目的」



チェスレイ・R ペリー

*1955年11月米国コネティカット州のIMにて

まず、冒頭にニューヨークのチャールズ・モリスがあるロータリークラブにおいて、次のような話をされたのをご紹介します。

「あなた方の前に立つ私は、ロータリーが進んで行く上に、定められた運命というものがあると、強固でゆるぎない信念を持っています。即ち、これまでの50年間の素晴らしい足跡は、これからのより偉大なロータリーの未来に対する礎であると信じています」と。

私はチャーリーモリスの発言を聞き、善き仲間である喜びを覚える一方、未だ、私たちが期待しているその運命が見え切っていないのではないかと思う。私たちはその運命にたどり着かねばならない。それがどのようなものなのかを明確にしていかなければならない。私はその運命に向かって速やかに、可能な限り何千回も地道な実績の積み重ねを重ねていく以外にロータリーの究極的目標に近づくことは無い。

昨年7月国際ロータリー会長のA.Z. ベーカーは今年度の実践プログラムとして、「リソースの拡充」を世界中のクラブへ発信した。究極的目標を達成するために次の5つの方法が提示された。その結果多くのクラブへ周知をされたが、果たして私たちは喜んで賛同し、優れた意見を言うことはいとも簡単であるが、最終的に本当に効果あるところまで届かないのである。ベーカー会長のこの5つの提言に果たして何人がきちんと心に刻んだらうか？ここで皆さんに再確認をしたいと思います。

1. 真のロータリアンをより多くもつこと。一単に会員数を増やすのではなく、会員とロータリアンとでは差異がある。
2. ロータリーをロータリーにふさわしい働きをすること。
3. ロータリーをロータリーにふさわしい居場所にする。

4. 他人との相互理解を醸成すること。
5. 私たちに続く次世代の若者たちを育成すること。

これらの5項目は全てのロータリアンが守るべき事項であるし、多分皆さんの中にも何も特段目新しいものではないと思われるでしょうし、常にロータリーのプログラムに謳われています。

だとすると、何故、ベーカー会長は改めて強調したのでしょうか？ 何回も何回も強調し続けるには相当熱い情熱無しではできないのではないのでしょうか？

正に、ロータリーの中で日常的に埋め込まれることが大きな狙いであるからです。私たちがロータリーの理念観に対する情熱が消滅しないこと、義務や責務としてリーダーに対しての恒常的な忠誠心が確固たるものであるべきです。

真のロータリアンであるためには、私たちは心の内に永久の炎を灯し付けなければなりません。最近、強く感じた言葉として；「あなたは自分がより大きくなるには、あなたのクラブいや、国際ロータリーより強固な強い信念を自ら保持していなければなりません」

あなたは今まで、クラブの全員が真のロータリアンであれば素晴らしいことだ、と聞いたことはありますか？ 私は聞いたことがあります。

あなたは今までロータリアンは自分のクラブ外には関心を持たないと聞いたことはありますか？ 私はあります。

あなたはこの国で平均的なクラブや地区協議会で国際ロータリーの立法に関して少しでも関心を持たないとこの声があることを聞いたことがありますか？ 私はあります。

この2つの質問は少し誇張されすぎかもしれませんが、ロータリアンの注目を喚起するには必要です。もし、何処でもこの質問条件を受け入れて、気持ちの切り替えできるロータリアンがいれば、変化への進取な気持ちがあることになります。

今日、国際ロータリーへの参加に対して無関心なクラブが多いだけに、できるだけマニフェスト化して刺激、誘導を図ればクラブは潜在能力があるものです。

私たちのクラブの中で一つ、国際ロータリーが過ちを犯さないためには常にエバンストンが魅力あるサービスを構築すること。そのためにはロータリーに対して忠誠心のある優秀なスタッフと並んで、この運動に対しての十分に思考力のある特別なロータリアンが必要不可欠です。

国際ロータリーはクラブの集合体(以下 RI とする)です。つまり、構成員はクラブであり、クラブを構成するロータリアンです。私たちのクラブ指導者はRIの各種委員会と同じ管理下でプログラムの決定に協力していかなければなりません。

私たちのクラブは「ロータリーの目的」を常に地域的に実行するのみでなく、人生の道、人生の確かな生き方の道として、究極的に世界規模での「奉

仕の理念」の受容を進めなければなりません。

RIに構成員として参画することは、一人一人の会員が属するクラブが参画することです。

胸に響く波動(The Echo of Heart Throb)

ロータリーの根幹は無形のものであり、精神的な概念であり、1905年に一人の男が仲間を大切にしようとする胸に響く波動が基本です。

50年経って、ロータリアンは組織の拡大を図り、素晴らしい運動を築いてきました。

私たちはもっと素晴らしくなることを望んでいます。その根本の運動理念は、ロータリー精神であり、それは私たちが亡くなった後も永久に続くものでなければなりません。

奉仕の理念とは、他者に対する思いやり、他者へ手を差し伸べることです。それは、一部の人々のためでなく、全ての人々に対して、時々ではなく、毎日、毎時であるべきです。

私たちはこのロータリー精神・ロータリーの理念が何百万人の方々に受け入れられて、自分のものになりますように、決して単にロータリークラブの会員のみで終わらないように願うものです。

32年前の国際大会で次なることが決まりました。

「一つのロータリークラブは事業と専門職の人の一団体であり、構成員は「奉仕の哲学」を受容し、追い求める人たちであり、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々にもロータリーの理解と実践の両方を推進する。」

私はロータリーの新しい考え方(アイディア)について話をしてきましたが、今私たちは人間社会において「奉仕の理念」とは何か? について新たなビジョンを樹立するべき時です。

実際、32年間という一つの世代で、ロータリズムとロータリーの実践活動はロータリアンでない人々によって刺激、影響を受けて多くの良い行動に結びついてきましたし、今なお、そうであると思います。

今日までは、死者より出生者の方が35,000人多い数字です。世界の人口は一年間120万人増加でし、19世紀末から見ると年間5~6百万人増えたこととなります。ロータリーは20~25億人の中では、ほんの僅かの部分でありませんが、絶えず何百万人の方々にロータリーのメッセージは届けてきました。

私たちはかつてロータリアン一人一人に対して、月に一人に向けて「奉仕の理念」つまり、他者に対する思いやり、手を差し伸べることの人生の生き方を奨めてきました。結果として、一年間で延べ4~500万人にも達したのです。

この夢計画は当然、数字上の単純化されたものでありますが、何事も夢

を見るだけでなく、計画して実行を伴わなければ、完遂出来ないことが証明されました。今や、月への旅行が単にジョークでは無くなったし、今世紀は科学・化学の分野では驚異的な進歩が可能な世紀です。ロータリアンは心理学と人間関係で同様な進歩が可能です。

私たちはリソースを拡充して、他のロータリークラブの例ですが、コンゴからのベルギー人やエチオピアやトルコ等からのロータリアンが増強されたことは大変喜ばしく、ロータリアンでない人達に色々な方法で彼らの人生の中に「奉仕の理念」を受容させる体験をできることに確信を持ちました。

しかし、私たちは辛抱づよく、持続的に進めていかねばなりません。

更にこの動きを継続するには----

私たちは真のフェロシップ(親睦)とサービス(奉仕)の精神並びに実践をクラブの中で進展させ続けるようにしなければなりません。

また、私たちの事業や専門分野の中でも奉仕の理念を他者に対して示し続けなければなりません。

私たちは自分たちの地域社会に対して大切な支援サービスの心を示し続けなければなりません。

私たちは世界中のロータリアンの仲間たちとの出会い、交流し、私たちの家庭においても他国からのロータリアンや学生たちを歓待すること。そして、他国における修士獲得後学生に対してポール・ハリスを拡大し続けなければなりません。

私たちはこれらのことを誠実に且つ上手く実行すること。もし、中断したりして、大切な大きなロータリーの総括的目標の実現に失敗してしまえば私たちは単に、20～25億人に対しての人騒がせになってしまい、不幸な世界の中の一握りの仲間にしかならなくなってしまいます。私たちは持続性を保つという大きな仕事を持っているのです。

私たちが「天国でと同様、この地球上でも実現できる」と祈りを捧げる時、私たちはきっと神様は人間に対してこの地球上でやり遂げられる力を与えてもらえることを確信します。

何百万人に対して目に見えないアイデアを埋め込むことは一見不可能に思われるが、私たちのプランが適切で揺るぎない信念での実行で完遂できるとの確信には何の限界も存在しません。

幸いに、私たちは他の奉仕団体に多くの同士がいます。例えば、キリスト教会、ユダヤ教会、クェーカー教会、聖クリストファー、救世軍等々で皆男女や子供達に個別的に接することができるのです。私たちは彼らもより良い世の中にしていくことは嬉しいことです。

しかしながら、世界規模で50年間にわたって数々の経験を持つロータリ

アンはより良い世界にするためのあらゆる努力を誰よりも先頭に立つものでなければなりません。

私たちロータリアンが超我の奉仕を強調するには世界の主要な宗教に内在する種々な教訓とのすり合わせを図る必要があります。

肯定的には:汝がしてもらいたいことを他人にも施せ。否定的には:汝がしてほしくないことは他人にしないこと。

ロータリーのこの素晴らしい冒険はいかなる新宗教の啓示でもなく、またいかなる新しい哲学的教えでもなく、現代の人間関係の中で育ってきた伝統的な教えを方法論として効率化してきたということです。

ポール・ハリスと初期のロータリアンはビジネス関係に不滅の真実を見出し、最終的にすべての人間関係にも適用することを発見したのです。

今日、私しそして私たちの仲間のロータリアンは、ロータリーが世界中の人間関係のことで何か改善できることがないかに関心を寄せなければなりませんし、私たち政府に対しても世界の原子力エネルギーを産業や農業等の発展に使える方法を図るように言わねばいけません。

そのようにしようと決めれば、私たちはクラブ内や共同体の中でやるべきすべての事柄に刺激を加え一方では、ロータリーの持つ偉大な究極的目標の構築を図らねばなりません。

単に図るだけではなく、いかにしたら完遂できるかが大切です。今、多くの方がいろいろ動いています。中にはハーバートテラーの4つのテストに注目している人もいますが、コウノトリが赤ん坊を連れてくるのと同様に「奉仕の理念」を推進させる私たちはそんなに忙しいのでしょうか?

THINKING—RIGHT AND WRONG(正しいか間違いかを考える)

コウノトリの動きと張り合うぐらいに私たちは全ての国のすべてのクラブのすべてのロータリアンの思考を結集させなければならない。最近、土曜レビューの番組でノーマンカズンスが話していたのは「考えることは人間の歴史の中で基本的なエネルギーである。文明は機械でなく、考えることによって作られる。」また、「誰も分かった風に見えるのは、自分たちを守るためとか、自由とか男の根幹を支えるための戦争よりも彼女の方向性に委ねるべきとの考えである。しかし、誰が一貫した考え方を付与しているのだろうか?」

ロータリアンの中に一つの「異なる方向性」を見出している。しかし、私はカズンス氏へ電話して彼らが果たして「一貫した考え方の付与」がしているか否かの確認はしていない

私たちの国の何百万の人々は、ロータリーについても「奉仕の理念」についても全く知らない。多分、ロータリークラブがあるご当地ではロータリークラブがあることは誰も知っているが、果たして、何人がロータリーの目的、

ロータリーの理念その一部となる偉大な冒険について知っているのでしょうか？

この偉大な運動に関しては皆さん、皆さんの多くの思考が必要ですし、いろいろな手順と手順の変化が必要であるし、それは私たちの町や国、他国迄へのロータリーメッセージとなるようにしなければなりません。

共産国家にはロータリークラブはありません。もし、この国が共産主義に乗っ取られたら民主主義、自由主義、利他主義そしてロータリークラブともサヨナラとなるでしょう。この頭の体操は私たちすべてにとって深刻なことであります。それは魔王サタンが天国から追い払われて以来のもめごととなります。同時に、人々のマインドや精神的支柱との葛藤でもあります。

この葛藤の出口にはすべての人々の心の安寧や善意と理解の展開に結び付き、他者に対しての思いやり、手を差し伸べるのが自由となりますし、人種の多分一部の極端な考えの者たちや、奴隷根性の者たちを減少させることとなります。

ジュネーブ以来コムラド・フルフチョフが共存に関しての発言が良く引き合いにでる。「微笑は誠実の証しであり、私たちは平和の中で暮らしたい。しかし、もし誰かが私たちの微笑をマルクス、レーニンや共産党員の道筋を捨て去るように思ったら、彼らは馬鹿げているのです。彼は共存をしたいのです。長年資本家として歩んできたあなたには、そうは見えないし、あなたのシステムが古びて腐敗していることに気がつかないのです。先に進んで挑戦しよう。そして誰が正しいのか判別しよう。」

明らかに、共産党員は確信的な自信を持っていて、それは好きだとか嫌いだとかにかかわらずプログラム化されている。自由世界の人々も自信をもってはいるがどうやって胸中ではっきり区別を明確にさせようか？ 共産党員の挑戦に対して、良く練られた非軍事的プログラムを持っていると言えようか？ 私たちは単にそう望んで待っているだけでは勝てない。

その点ロータリアンは対抗できるプログラムを作成できる自由世界のリーダーとしてふさわしい立場にいます。

DEMOCRATIC PARTICIPATION (民主的な積極参加)

ここで RI の会員であるクラブを積極的参加という別な視点で見よう。

ロータリー運動は最初、民主主義的運営方法からかけ離れたものから始まり徐々に RI への参加と運営が変わってきたのです。そして更に指揮命令が巨大となりクラブから遠く、理事会と委員会そして事務方へと遠くに移ってしまいました。

この傾向に反対する声は聴き流されてしまい、やがて制度化されたのです。

しかしながらこの反対の声のうねりは止まず、増幅されて鬱積となり、ついに第二次世界大戦の区切りでは手の負えない状態となったのです。

ここ3年間に、RIの中央管理機能と共同組織体の構成員であるクラブとの間の在り方が再検討され、結果として基本的に民主的な方法に切り替えをすることになりました。常識的に一言でいえば、RIはクラブの集合組織体であること。方針並びに運営手続きの改訂については、会員であるクラブのより積極的な参加を図り、今まで失われた民主的手順を取り戻すことになったのです。

中には、クラブがそう積極的に参加しなくても良いのではないかと、そう望まないという人もいます。しかし、私は前からそうあるべきであると主張してきた民主的方法をもってのみ、ロータリーの運命が定められると信じるし、各クラブの人もそう思い、行動するべきとやってきたのです。

私たちのクラブは単に昼めしを食べるだけのクラブではありません。しっかりとRIという共同組織体を構成する会員なのです。クラブリーダーとメンバーはその点を自覚願いたいのです。

1932-33年に戻ります。RI会長はC.P.クリントン氏(現U.S.上院議員)その年度で会長はクラブによってはロータリーに対する関心度が欠けていることに注目しました。記録としてRI理事会は次のように助言しています。

「単に関心を引くことや娯楽的な計画をするよりもっとロータリーの題目に沿った計画に力点を置くように」と。

ロータリーの題目とは何でしょうか? もちろん、地域におけるクラブの超私の奉仕活動もありますが、大事なことは理事会とか委員会にてこの題目についての議論を閉じ込めないことです。みんなでその議論に積極的な加わらせることです。このようにも言えます、「私たちは最もよく理解し最も多くロータリーの題目に積極的に関わること」

地域の事柄に敷衍すれば、ロータリー運動のメカニクはRIの運営にも関連してくる事であります。クラブのメンバーとして議論することは即、ロータリー運動の新しい関心事を発見することにも繋がりますし、地区協議会、地区大会、プロジェクトや活動にもつながってきます。そして、私は最終的に目指すロータリーの偉大な究極的目標に到達するための情熱となることを信じる。

REVIEWING PROPOSED LEGISLATION (提案立法案の見直し)

今日、私たちはRIの立法案に対して、常に最新の立法案に参画する責務を負っています。しかし、古いクラブの中には責務を感じていないところもあります。実際今日までクラブが立法案の提案に不適切な経過があり、その結果新しいクラブまでが同じ様な状態になってしまいました。

今、RIは定款の修正を2年には一度、規則の多岐にわたる見直し提案しています。

最近では、来年6月フィラデルフィアの国際大会で各クラブと会員が立法案に

対する見なおしの行動をするようにスケジュール化がされます。去る5月にすべてのクラブに対してそのためのリフレットが送られました。

もし、国際大会で採択された立法案が私たちのクラブや会員にとってどのような影響を及ぼすのかを見るだけでなく、大きな視点でロータリー運動の繁栄に繋がるのかを是非見てほしいのです。

地区協議会においては、クラブの代表者たちは自分たちのクラブの結果と地区内他クラブの結果と比較する機会が与えられます。

規定審議会のアドバイザー(地区協議会から選出)は、その地区やクラブからの結論を持っているので、国際大会の審議会で周知ができるのです。

従って、国際大会のセッションの中で、世界中のクラブの代表者たちは審議会の色々な審議過程や助言等を勘案して、出された立法案に投票するのです。

これが、私たち RI 組織のなかでの民主的な方法での運営です。更に私たちは円滑で効率的に進めるために、私たちは非政府かつ世界的規模で民主的運営方法を進めていくことに誇りを持っています。そして、このことは民主主義が大変危うくなっている世界情勢の中できっと良い見本となります。

OTHER PHASES OF PARTICIPATION (他の参画のありかた)

まだ、ほかにも違った面でクラブは積極的な参加が求められますそれは、私たちやあなた方のクラブは地区協議会でも識見豊富でビジネスの会議でも良く洗練されている人々に是非参加して発言してもらいたいのです。

そうすることが私たちクラブの義務でもありますし、そして資格者としてまたは代理として国際大会に積極的に参加し、議論をして投票することが必要です。

同様に、ゾーンから選出されて RI の会長指名委員会に参加する場合でも良い発言をし、それが功を奏せば次年度の優れた RI 会長選出に結び付くのです。

これら一連のことは毎年クラブが心がけることですが、2年に一度は地区から優れた見識をもつロータリアンを国際大会の立法案諮問会議に影響を与えるように参加させるべきです。

更に、私たちのゾーンから2年任期の RI 理事会メンバーの選考に関わります。理事会は300万ドルからの収入と200万ドル超える剰余金の管理を任されているわけで、ビジネス的にも1大組織です。

付随して言えることは、もし私たちクラブが民主的に参加して代表者指名選考に加わることが分かれば、大変勇気づけられることでしょう。

私はこれまでも言ってきましたが、クラブは RI の一員として RI を継続して民主主義を守っていく責務があります。

個人的または代表的参加、通常は両方であるが民主的な方法がなければ

決して会員の継続的参画はあり得ません。

私たちが立法案を検討する、ロータリー運動の管理やプログラムに関連して考える時は、あくまでも私たちクラブ並びに属する会員たち独自の参加になるのです。同じく、国際大会投票人を選ぶのもクラブですし、もしあなたのクラブが地区、ゾーンへ送る時の合同の代表者を決める時もクラブの意思です。誰を選ぶかは、参加する私たちの代表者に委ねられるのです。

DEVELOPING NEW IDEAS (新しいアイデアの展開)

今のロータリー運動はまだ、一本立ちが出来ていません。ロータリーは常にビジョンを持ち、警鐘を鳴らし、変革の可能性を追い続けなければいけません。ロータリーは生きている有機体であり、人生の一つの法でもあります。ロータリーの目指す運命にたどり着くためには、遅かれ早かれ現行の方針なり手続きを変えることが必要です。

あなたのクラブには新しい手続きが存在しますか？ いつでますか？ あなたの地区ではどうですか？ 総じてロータリー運動の中ではどうですか？ あなたの事業や専門分野で四半世紀前のやり方が残っていますか？

修士課程の学生に対する拡大を続けたポールハリスフェローシップはここ10年近く前に見直しを迫られました。クラブによっては「ロータリー目的」との整合性を考慮したプロジェクトの検討をし始めてはいませんか？

ポール・ハリスはかつて、強調していました。つまり「ロータリーは何千人の人々の心の産物であって来た」と。ロータリーの未来はまた、何千人かの人々によつての思考の結果で決まるべきである。それはもしかしたら何らかのロータリアンでない人たちかも知れない。

RIの共同体の外側でロータリー運動の今日の問題に対するアイディアが出始めている。

そこには、何年かあるべき方向性とは何かのアイディアが既に出されてきている。

できれば、あなたのクラブがそうであって欲しいし、価値あるアイディアを出してきてもらいたい。

私たちはロータリーの中の新しいアイディアを単に拒否、恐れるのではなく、それが持つメリットがどんなものなのかを検証して欲しい。

それはそんなに多くはないかも知れないが、採択・棄却される前に世界的規模で他の人々が価値あるものと認知するかも知れない。そして、そこかしこのアイディアの中には「澄み切った光を放つ宝石」であることを見出すかも知れません。

CLUB PROGRAM TOPICS (クラブの特徴あるプログラム)

ロータリークラブ中のプログラムに話をもどすと、どうあるべきかについては、クラブによつての差異があると言えます。強いて言えば、的確な筋や指示系統によつてのプログラムにおいては、クラブ内の検討を省いて正当化してしまっている節があるように私には見えます。他のトピックスの点付けはそのクラブによつて、なされなければならない。

現行立法案を提出する場合は、確実にクラブ内での検討を経るが、他の件では省略してしまうケースがあるが、そのようなクラブから決して立法案は出されることはないと言えます。

そういうクラブは単に興味あるプログラムのみが楽々と通過してしまうのです。

例えばロータリーの初期段階で「奉仕の理念」をロータリアンだけでなく全ての人々に感化させようという決めたことなどもそのケースです。あなたのクラブ内で議論して自ら「奉仕の理念」を再確認するか忘れ去ってしまうかを決めるのです。単純に私の言ったことを鵜呑みにしてほしくないのです。

その上で、もし、あなた方がロータリアン以外の人々に対して人生の生き方として、他者への思いやりと寄り添うことの大切さを説いて拡大しようとするならば、何がクラブにとって最も効果的に進める方法なのかを議論し続けることです。このことは個々のロータリアンでも同じであり、RIにとっても同様なことなのであります。

私たちはUSゾーンからRI理事を選出する場合、現行システムを続ける方が好ましいのか、それともゾーン別に指名委員会を組織すべきなのか、を研究すべきではないでしょうか？（誰かが、現行のシステムは何か、問われればそれは、あなたとメンバーで現行システムについて勉強検討することが初めての良い経験となり、詳しくなる良い機会となるでしょう）

私たちはRI理事会メンバーの現行決定方法が果たして、ロータリー世界があらゆる考え方や異なる宗教や文化を持っている今、十分に満足すべき方法なのかどうかを再考してみてもはどうだろうか？ この議論をすることで全体としてロータリー運動の興味深い絵柄を多くの方々が描く妨げには決してなりません。

この直近の示唆に関連して私の認識は、毎年国際協議会はRI理事会によつて次期ガバナーの心得、義務として傘下のクラブ取り分け歴史のあるクラブが「課題」に関して時間と労力を掛けても価値のある考え方を習得させるのです。

MANUAL ACTIVITY IN CLUBS(クラブにおける活動マニュアル)

私の認識ではRIの中で特に責任ある地位にある人、就いたばかりの人、こ

れから就く予定の人たちの中では、ロータリアンのランク付け、区分けを過度に扇動する傾向を心配しているロータリアンが少なからずいる。その人たちはロータリーの現行定められている手続きの在り方に反しているのではと感じているのであろう。しかしながら、そう感じている人がいるにせよ私は、永劫すべきクラブの精神行動としてのこのロータリー活動の価値をしっかりと認識すべき時であると思う。

私のロータリー運動に対する真の信条は、この運動を力強く、効果的に達成することであり、これは単に理事会や委員会に留まらず、クラブの会員増強においても同様であり、具体的な運動のプログラムや将来性そして、この運動のメカニズムを考えることが正に、ロータリーの偉大な究極的目標への議論の拡大に広がるのです。

もちろん、のようなクラブでの議論は正しく組織化され監理されて立法案提案の見直し提案に結び付くものでなければなりません。それはきっと可能です。

民主的手法は、どの場合でも決してオートメーション的になってはなりません。常に人間的に考え、人間の手でもって、思いをはせて成功させるようにせねばなりません。

私たちは RI の民主的方法を図ることは、ロータリーの草の根、構成員のクラブ、その指導者、委員会、その基礎となる個々のロータリアン抜きでは決して成り立ちません。更に効果的に進めるためには民主主義、自由そして利他主義何よりもこのロータリー運動自体が完璧に民主的であらねばなりません。

総じていえば、この運動はクラブそれ自体の関心事でなく 100%ロータリークラブからは離れているものです。クラブ例会では一般情報やレクチャーとしてまたは旅紀行映画として関心と呼ぶかも知れません。しかし、ロータリアンならばどこへでも行くことは可能です。ロータリーを知りうるのはロータリークラブでのみですし、それがロータリー情報やインスピレーションです。それにはロータリーへ加わり、求めることです。いやそうであるべきですし、レベルダウンさせてはいけません。

この世界で利他主義を広げ、実現に結び付けるのには自由と民主主義が必要です。世界のロータリーが民主主義、自由そして利他主義で波動を受ける時は、ロータリーの持つ運命の達成に向かって現在隠れている能力を必ず発揮すると思います。

全てのクラブは少なくとも「発泡するプラグ」であるべきで、民主的手続きに長け、寛容な自由がわかり、「超我の奉仕」という利他主義を理解して献身的であり続ける人がいることです。

GREAT OBJECTIVE—DESTINY (偉大な究極的目標=運命)

1919年ソルトレイク市での国際大会が閉会となつてのホテルロビーで花束を持った一人の男がRIの事務長に近づいて次のように言った「すいません。あなたたちの大会についての新聞を読んで参りました。あなたたちロータリアンは何か良いこと、何か微笑ましいこと、何かたくさん世界の為になるようなことをなさると知り、ここに庭から花を摘んできました。しかし、大会は終わりと知り、この花束をロータリーの成功の為に私が祈っている証として、お受け頂けませんでしょうか?」と。

庭で栽培した花束を手にした一人の老人の現れは、丁度ロータリーが35年前に世界で必要とされているものは何かを探していたことの検証を迫られたのです。未だ世界必要としているのでしょうか? もちろんのこと、以前よりましています。ロータリーは世界に対して以前よりも更により広範囲に、より深掘してより効率的にニーズに応じて行くべきでしょう。

その答えは多分遠回りのですが確実にあなた方と私しに掛かっています。換言すれば、40~50万人のロータリアンの全身全霊に委ねられているのです。

このことはRIの主要スタッフや委員会だけではとても手に負えない大きさです。彼らはリーダーシップ、的確な助言、時には何千万人もの人々と私たちとの協同契約をするなど計画の実行を支えます。

世界中の政治家や外交官たちは議会の議場で、言い争ったり、議論したりそして同意したり、不同意を繰り返す一方で、ロータリーは静かにそして穏やかに、私たちと同様に普通の生活をしている町の内外の住民、更には国内外の人々と近づきになるべきです。そして、全ての人類が他者に対して思いやりの心と手を差し伸べるようになるまで私たちの仲間に招き入れて共に「超我の奉仕」を希求していくべきです。これこそが「ロータリーの偉大な究極的目標」です。これこそが「ロータリーの運命」なのです。

このための達成に今まで多くの努力をされてきたロータリークラブに敬意を表すると同時に、今もなお、会員がよりこの偉大な考え方の理解拡大と実行に挑戦されているクラブに敬意を払います。最終的には、講和ができ、健康的であり、平和と幸福が享受できる時代を目指すのです。

最後に、私の考えを一方的に注ぎ込んでしまいましたが、ご清聴頂き感謝します。

ありがとうございました。

(講演終わり)

(翻訳者後記)

2005年ロータリー100周年記念国際大会がシカゴで開かれ、その折ロータリーワシントン=シカゴロータリークラブにメイクアップ出席し、受付テーブルの上に販売用としておいてあったのが「チェスレイ・R・ペリーのロータリー人生」という小冊子で早速購入し、感

銘致しました。本の冒頭にポール・ハリス:「もし、私が国際ロータリーの設計者と呼ばれるのであれば、チェスは正しく国際ロータリーの構築者と呼ばれるべきである」チェスは1872年9月12日生まれでロータリー・クラブ国際連合会事務総長(今の RI)を32年間務められて1960年2月21日に逝去されました。

この度、2680地区 PDG 田中 毅先生が主宰する「源流の会」のアーカイブに載りました中に”Rotary’s Great Objective” By Chesley R. Perry, at an Inter-city Meetings in Connecticut: Nov. 1955 に注目したのは、チェスが亡くなる5年前のスピーチですので、彼の長年に亘って創設者ポール・ハリスと共に正にロータリー人生を送られた方のロータリーに対する信条は何なのかを語る集大成のスピーチではないかと思い、和訳してみました。誤訳の部分もあろうかと思いますが、ご寛容の程お願い致します。

今、日本ロータリーが2020年に100周年を迎えつつある中で、このスピーチが「温故知新」の鏡として大変意義深いものであることが今回の一番の収穫でした。

つまり、チェスが何よりもロータリー運動の根幹をなすのは、「超我の奉仕」「奉仕の理念」であり、「他者を思いやり、他者に手を差し伸べる」ことこそが、永久に向かうべき目標である、としているところです。

翻訳者: 曾我 隆一(前橋 RC)
(2005-2006 年 RID2840PDG)